



校長室だより

八代市立八代小学校
校長 村嶋 博史

学校教育目標 「自ら学ぶ子供」

R4,6,2 No,6

全校集会で「自律」について話しました

以前、全校集会で、子供たちに「自律」（節度を保つこと）について、「自分の心に線を引く」というイメージの力を借りて話しました。下は、その内容の一部です。

何回叱られても、人に迷惑をかけてしまう子供や、叱られないときちんとできない子供がいますよね。そういう子供は、「自分で線を引く」ということができないんです。この辺まではよいとか、ここからはダメとかいう「線引き」が、自分でできないんです。だから、いつも誰か他の人に、「ガツン」と言われないと、つつい線を超えてしまうんです。誰か他の人に線を引いてもらわないと、越えてしまうんです。

世の中には、線は引かれていないけど、色々な物事に対して、越えてはいけない線があると思います。例えば、「人に嫌なことを言う（する）」「陰口やうわさ話をする」「友達によって言葉や態度を変える」「多くの人を利用する所で走ったり、騒いだりする」「自転車にノーヘルで乗ったり、一旦停止をしなかったりする」「人の物を黙って使う」など、全部越えてはいけない線ですよ。

しかし、この心の線を自分ではなかなか引けない人がいますよね。幼い子供は仕方ありません。そこで叱られて、だんだん自分で、こういうときはこの辺が線なんだと学んでいる最中ですから。しかし、小学生になってもそれじゃ、幼い子と変わらないということだから、ちょっとはずかしいですよ。

自分が発する言葉や行動については、「自分で線を引ける」のが小学生です。そして、それが「自律」ということになります。

最近、つつい越えてしまっている線や越えそうになっている線はありませんか、思い浮かべてみましょう。そして、これからは絶対に線を越えないように心がけて行動しましょう。

自分の心に線を引く

このカードを各学級に設置し、指導に活用しています

今後、子供たちが、自分の言動に対し、自分の心に自分で線が引けるように、職員一同で「今のは線ギリギリだよ」とか「今のは線を越えていないか？」などと声かけをしながら、「自律」の意識を高めていきます。ご家庭でも同様に、「心の線」を意識する声かけをしてください。

子育て一口メモ

「達成感が子供を伸ばす」

幼児教育家 はやし浩司

「やったー！」という達成感が、子供を伸ばす。そんなわけで子供のうちは、（できる・できない）という視点ではなく、（がんばってやった・やらない）という視点で子供を見る。たとえ間違っている、あるいは不十分であっても、子供ががんばってしたようなら、「よくやったね」とほめて終わる。こまごまとした神経質な指導は、子供をつぶす。

※本校では、結果や達成のみならず、「挑戦」したことを認め、褒めるようにしています。そうすることで、全ての子供に自己有用感を育てています。